

# 愛知インターナショナルスクール

## 愛知から世界へ。育て、未来の国際人！

世界で通用する語学力を持つ国際人の育成をめざし、幼児部は英語のみで、初等部はバイリンガルで教育を行っているのが、名古屋市にある愛知インターナショナルスクール(AIS)です。日本人意識を大切にしたい「日本人のためのバイリンガル教育」を理念に掲げ、他校とは一線を画した独自の方針をとるAISに取材にうかがいました。



2歳児クラスを担当するアメリカ出身のコルドバ先生。明るく元気な人柄で、子どもたちにとってはまるでお母さんのような存在です。

### 日本人のための バイリンガル教育

日本人児童のためのインターナショナルスクールとして注目を集めているのが、名古屋にある愛知インターナショナルスクール(AIS)です。幼児部から初等部までの10年間一貫教育で、初等部からのバイリンガルの日本人教育を目指しています。一般的なインターナショナルスクールはアメリカ式の教育を採用しているところが多く、外国籍の子どもに混じって学ぶ日本人の子どもにとっては、日本人としてのアイデンティティの喪失という問題が起こ



school data

### 愛知インターナショナル

愛知県名古屋市中東区にじが丘3-4  
TEL: 052-788-2255  
FAX: 052-788-2213  
E-mail: info@nipais.com  
■幼児部  
[入学対象] 2歳~5歳  
[授業時間] 月~金 8:45~15:15  
(5歳児の場合)  
■初等部  
[入学対象] 6歳~11歳  
[授業時間] 月~金 8:30~15:45  
(1年生の場合)

りがちでした。一方、AISでは外国籍の子どもは全体の約2割で、(定員に空きがある場合に受け入れを行っています)、子どもたちは日本人として育つことを前提としたバイリンガル教育を受けているのです。  
AISではネイティブ教員と日本人教員が指導しており、全員が外国もしくは日本における教員免許を取得しています。また、文部科学省による学習指導要領に準拠した教育を基本としているため(ネイティブ教員用には英訳版を発行)、初等部卒業後に一般の中学校に進学しても、学習進度や内容に差を感じることはありません。英語だけでなく、母国語である日本語の能力や基礎学力、国際理解力を身につけた心豊かな子どもを育てること、これがAISのめざす「日本人のためのバイリンガル教育」なのです。

How are you?



5歳児クラスでは、世界地図を見ながら国の名前調べをしていました。この頃から、楽しく遊ぶ時間と学ぶ時間のメリハリをつけた授業を行っています。

### 10名以内の少人数で 家族のようなクラス

2歳からの幼児部では年齢ごとにクラスに分かれ、ネイティブ教員と日本人教員がペアになって担任を持ちます。教室で使用するのは基本的には英語ですが、3歳児までは、日本語が出る時もあります。10名以内の少人数クラスのため、先生たちは子ども一人ひとりにじっくり向き合う時間を持つことができ、まるで家族のようだと思います。3歳児からは早くもフォニックス(英語の発音教育)を取り入れ、子どもたちは楽しみながらもしっかりと学んでいるようです。

また、AISでは子どもたちの個性を重視し、「生きる力」を伸ばすこともめざしています。そのため、課外学習や社会見学を多めに多く設けており、博物館や自然公園、自動車工場、鉱山の跡地など

### 課外学習で子どもの 「生きる力」を伸ばす

容を取り入れ、アメリカでは5歳児で行う内容を4歳児から始めるなど、子どもたちの進度に合わせて調整をしています。5歳児にもなると、英語の発音はまるでネイティブのよう。アルファベットや簡単な単語の読み書きもできるようになり、なかには5歳で英検3級(中学卒業レベル)に合格した児童もいるといわれています。

を訪れたり、防災訓練やサバイバル体験なども行うそうです。さまざまな経験を通して、子どもたちは生きていくために必要な知識やスキルを習得するのです。  
さらに、通常のスクールに加え「Children's After-School Program」も行っています。英会話、フランス語、中国語といった語学や芸術、スポーツに加え、年に数回のキャンプや野外活動を行う「トムソーヤキッズクラブ」、「マーケットウエインクラス」などは都会育ちの子どもたちにはとても人気があるといわれています。これらのプログラムは、AISの教員が担当するだけでなくときには外部から講師を迎えて行われる本格的なもの。子どもたちの世界を広げる取り組みとして、保護者にも好評だそうです。



ランチは給食とお弁当が選べます。この日の給食は子どもたちの大好きな中華麺。フォークを使って上手に食べられるかな?



ランチの後のお昼休みには、中庭で元気いっぱい遊びます。校舎の正面にある虹ヶ丘公園に遊びに行くこともあります。

学校長に  
聞きました!



シーラバトン 学校長

### 子どもたちは一人ひとりがスペシャルな存在

「愛知」というのは「to know love (愛を知る)」と書きます。AISは、この「love (愛)」を大切にしたい学校でありたいと考えています。子どもたちにはそれぞれ個性があり、興味のあることや得意なことがあります。私たちはそれを伸ばしてあげられるような学校でありたいと願うのです。同様に、教師にも個性があります。それぞれの個性を活かして指導にあたろう、子どもたちから日々学ぶという姿勢を大切にしようという共通認識を持っています。AISは、人生を豊かにするさまざまな人との出会いやそのきっかけが詰まった学校なのです。

# 愛知インターナショナルスクール 年間イベント



## バイオリン発表会

「Children's After School Program」にはさまざまな教室があり、年に一度の発表会を行います。AISはとくにバイオリンの習得に力をいれており、初等部では全員が習います。



## 運動会

毎年10月には、校舎正面の虹ヶ丘公園で運動会を行います。全児童が4色の組に分かれて対抗戦をくり広げ、とても盛り上がります。



## 課外活動

課外活動が盛んなAISでは、遠足や社会見学に年に何度も出かけます。自然に触れたり里山遊びをしたりと、都会で育つ子どもたちは大喜びです。



## マナー教室

課外学習の一貫として、フランス料理のマナー教室も行っています。お料理をいただきながら、ナイフやフォークの使い方や西洋の食事マナーを学びます。



## 七夕祭り

7月の七夕祭りは浴衣姿で楽しめます。クリスマスやハロウィン、感謝祭など西洋由来の行事だけでなく、日本の伝統行事も行います。



## 初等部



3年生の図工の授業では、ハロウィンの飾りを作っていました。担当は初等部の主任も務めるリード先生。文具や画材は主に外国製のものを使っているそうです。



真剣な表情で日本語の社会の授業を受ける5年生の児童。授業では日本の検定教科書を使用し、日本の地理や歴史などについて学びます。



Let's start!



## 英語と日本語の 両方の授業を受ける

初等部が上がると、本格的なバイリンガル教育がスタートします。音楽、図工、体育の授業は英語のみですが、それ以外の教科は英語と日本語の両方の授業を受けることになるのです。英語での授業時間内は英語のみを使用し、北米で使用されているテキストを使います。一方、日本語での授業時間内は日本語を使用し、教科書は国内で一般的に使用されている検定教科書を使用します。AISでは教科書専任制をとっているため、さまざまな先生たちとの交流があり、子どもたちの人格形成にもプラスにはたらくといえます。

英語・日本語双方のカリキュラムをこなすために、授業は毎日7時間目まであります。子どもたちにとっては決して易しい生活ではありませんが、英語と日本語の授業を並行して受けることにより、英語力を母国語並に伸ばし定着させることができます。

初等部でも10名程度の少人数教育を行っているため、それぞれの習熟度に合わせた進捗をとることができます。個別指導のようなクラスもあり、現在の6年生(2名)の算数の授業では中学2、3年レベルの数学の内容をやっていると

## 幼児期〜初等教育期に 言語能力の基盤を作る

取材に訪れて何よりも印象的だったのが、子どもたちがあまりに自然に英語と日本語を使いこなしていることでした。ホームルームや休み時間は基本的には英語ですが、ふと日本語になることもあります。しかし、それがとても自然なのです。子どもたちにとっての日本語と英語の壁は、私たちの感覚とはまったく異なるものなのでしょう。英語も日本語も同等に体に染みこませるためには、やはり幼児期からのバイリンガル環境が欠かせません。

英語ができるのがあたりまえと見なされ、英語力+αのスキルが求められる今後の社会で生き抜くためには、多少ハードではあっても幼児期〜初等教育期に言語能力の基盤を作っておくことが得策です。今後の日本を、そして世界を支えるバイリンガルな日本人育成に貢献しつづけるAISに、さらに注目が集まることでしょう。

## 創業者に 聞きました!

## 株式会社立であることに誇りと自信を持つ



(株) NIP 鈴木雅夫  
代表取締役社長

私は世界を舞台にビジネスを展開するなかで、日本人の国際化意識や英語力の低さを目の当たりにしてきました。そこで、将来の日本を支える人材育成事業を手がけることを決意したのです。AISは2006年にスタートしたばかりの株式会社立の学校ですが、私たちは株式会社立であることに誇りと自信を持っています。日米並行のカリキュラムはAISだからこそ可能なもので、教師の質にもこだわり、環境や設備も充実しています。日本語や日本についての知識も豊富な「バイリンガルな日本人」を育成すること、これこそが私のめざす教育なのです。